



第7回大会報告

◆総括

佐藤 誠

大会長（東京工業大学）

第7回日本VR学会大会は2002年9月18日から20日まで、臨海副都心にある東京国際交流館において開催され、全日程を無事に終えることができました。本学会の第1回大会が開かれたのは6年前、1996年の秋のことです。産声を上げたばかりの学会のスタートを飾る大会にかける会員の皆さんの熱い意気込みを今でも思い出することができます。あの時から、名古屋、札幌、奈良、筑波、そして長崎と全国各地に会場を移して大会が開かれ、そして7年振りにまた東京に戻ってきました。

この間、世紀を跨いで私達の身の回りにはどのような変化が起きたのでしょうか。携帯電話やインターネットの爆発的な普及。子供達の手にするゲームマシンの驚異的な進化。まさにメディア革命の始まりと言って良いでしょう。これから先の未来にはどんな社会が待っているのでしょうか。この大会では、来るべき未来に触れることのできる大会にしたいと思いました。そして、それにふさわしい会場として臨海副都心が選ばれました。

特別講演には、今もっともメディアビジネスの世界で輝いている人、まさにメディア革命を推進している人に話を伺いたいと思いました。大変お忙しい中、ソニーコンピュータエンタテインメントの久野良木健社長にお願いいたしました。未来のビジョンを眼光鋭く、しかし大変優しい笑顔で語っていただき、予定の講演時間があっという間に過ぎてしまいました。

大会のイベントを少し振り返ってみたいと思います。初日の夕方には、パフォーマンスグループ cell/66b の公演がありました。オーストリアリンツで開かれたアルスエレクトロニカでの活動を終えたばかりとのことで、日程的に大変幸運に恵まれました。迫力のある映像、音楽、そして踊りとが絶妙なインタラクションによって渾然一

体となった空間は、なにか現代のケチャといっても良いように思いました。

今大会では初めての試みとして学生バーチャルリアリティコンテスト（IVRC）の東京予選大会が2日間併催されました。参加者の皆さんが、Vash という名前の VR マネーを使って、気に入った作品に投資をするという、とても面白いコンテストの試みでした。参加した学生諸君も、心血を注いで作った作品を多くの人に体験してもらう機会を得たのは良い経験になったのではないのでしょうか。久野良木社長には講演の前後2回もわざわざ会場に足を運んで作品を体験していただき感激しました。

懇親会は、初日の会場内での立食パーティと2日目のセガジョイポリスの二本立て構成となりました。ジョイポリス特別イベントは、乗り放題の大幅割引券付きでした。ワイルドジャングルなどの最新のアトラクションを夜遅くまで思う存分楽しむことができました。一般の入場者も交えたセレモニーが中央のステージで行われ、IVRC 予選通過発表や論文賞の表彰式がありました。ジョイポリスを懇親会場として使わせていただくことについては、実行委員でもあるセガの武田様に大変お世話になりました。

3日目には、会場に隣接した産業技術総合研究所デジタルヒューマンラボラトリへのテクニカルツアーを行いました。科学未来館の見学もあわせて、有意義な時間を過ごすことができました。

今回の大会では150件を超える発表があり、400人近い参加者を得ることができ、お陰様でとても盛況な大会となったと思います。新しい企画や楽しいイベントを次々と提案し、実現してくれました若い実行委員の皆さんの素晴らしい行動力とチームワークに心より感謝したいと思います。実行委員のこのチャレンジ精神は第1回大会からの良き伝統だと思います。今後もこの伝統が引き継がれていくことを祈っています。最後になりましたが、本大会の実施に様々な方面から協力していただいた方々と、ご参加いただいた会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。